

税理士みむらの

プチ経営塾

日本で一番大切にしたい会社より

中村ブレイス株式会社

オンリーワンの技術で人を幸せにする！

中村ブレイスの創業者、中村俊郎氏は 1948 年に大森町(島根県大田市)に生まれました。中村家は、戦前は裕福な資産家でしたが、農地解放によって資産の大部分を失い、収入は町役場に勤める父の給与だけとなり、

厳しい生活を強いられました。

成績優秀な中村氏でしたが、大学進学は断念し、京都の義肢製作所に勤めることになりました。

会社情報

代表取締役社長	中村 俊郎
創業	昭和 49 年
設立	昭和 57 年 10 月
事業内容	義肢装具、メディカルアート製品
資本金	2000 万円
売上高	10 億円
従業員	70 名(2012 年)

本社(島根県大田市)



メディカルアート研究所



事務所

東京事務所
広島事務所
米子事務所
マレーシア事務所

社長の金言

- モノづくりで人の心を温かくしたい
- 利益だけで満足してはいけない
- 経験を若者に伝えればいつか花開く



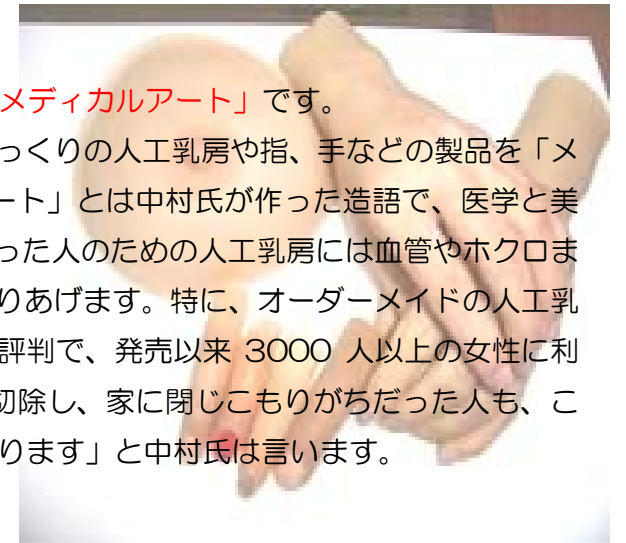
実家の納屋を改造して創業

仕事を続けながら近畿大学短期大学部の通信教育課程で学び、卒業できる見込みが立った時に 1 ケ月の休暇をもらい、研修のために向かったのが、米国カリフォルニア州の義肢装具メーカーとして世界的に有名なホズマー社でした。中村氏は、アメリカの義肢装具メーカーや病院で 2 年半の経験を積み、最新技術を習得して帰国し、実家の納屋を改造して、1 人で中村ブレイスを創業しました。1974 年 26 歳の時でした。

オンリーワンの技術

中村ブレイスが世界に誇るオンリーワン技術が「メディカルアート」です。

中村ブレイスでは、シリコンゴムで作った人体そっくりの人工乳房や指、手などの製品を「メディカルアート」と呼んでいます。「メディカルアート」とは中村氏が作った造語で、医学と美術を融合させるという意味です。乳がんで乳房を失った人のための人工乳房には血管やホクロまで描き、指には毛を植えこんで、本物そっくりに作りあげます。特に、オーダーメイドの人工乳房は、装着していることさえ忘れることができると評判で、発売以来 3000 人以上の女性に利用され、勇気を与えてきました。「乳がんで乳房を切除し、家に閉じこもりがちだった人も、これをつけると、自信を持って外に出られるようになります」と中村氏は言います。



地域のために・・・

従業員 70 名の株式公開もしていない小さな会社ながら、年商 10 億円を上げ、その利益で会社のある島根県大森の古い町並みを保存、古い資料を集めて、博物館のようにし、2007 年に鉱山遺跡としてはアジアで初めてのユネスコ世界遺産登録を果たしました。

本業では、大やけどで両足を失ったモンゴルの少年を日本に招き、義足を贈りました。また、石見銀山とアフガニスタンを舞台とした、義肢装具士が主人公の映画「アイ・ラブ・ピース」の製作にも全面協力しました。

本業以外では、これまでに市内 38 軒の古い空き家を改修し、また、夏休みに海外の子供を受け入れる「なかむらスカラシップ」を実施、さらに、老朽化した大森代官所跡の資料館を全費用負担にて改修を行ってきました。

医療用の義肢装身具製作販売を業務として、創業より 40 年を迎えようとしています。夢を抱きながら、地域とともに一步一步成長でき、その気持ちを表し、世界の宝となった石見銀山に関するさまざまな研究や文化活動に尽力している個人や団体を、中村ブレイスの「石見銀山文化賞」として全国から(諸外国含め)選考し、毎年独自に表彰を行っています。世界遺産登録 1 周年を記念して、毎年 7 月 2 日前後に中村ブレイスなかむら館に於いて、個人或いは団体を表彰します。

旧松江銀行本店(なかむら館)



明治 36 年に松江に旧松江銀行本店として建てられ、松江から大田市内に移築されて市役所別館などに利用された後、平成 12 年中村ブレイス社の社長の尽力によりこの地に移築、活用されています。



中村氏は・・・

どのような企業でも、追及している分野をさらに高めて成長することが社会的貢献につながるのだと思います。特に若者を育てるのが一番大切。売るために人を使うのではなく、「人が成長すればものが売れる」という考え方、社員の成長を促す夢を持てる取組が必要だと思っています。